

Ⅲ 令和7年度学校経営の重点等

1 学校経営の重点

現在、高度情報化社会が進展しつつあり、その一方自然災害や国際情勢など、先行きの見通しが困難な VUCA 時代でもあるといわれている。日本国内にあっても人口の減少や少子高齢化が加速しており、持続可能な社会実現への視点が重要になっている。学びを大切にしながら、コミュニケーションや協働を図るための自尊感情や他者への尊敬の思いを涵養することも大切である。そういった課題を身近なものとして地域を学びのフィールドとしながら、現在の教育課題を解決するべく教育活動を行う。

今後、一人ひとりが生きがいを持って豊かな人生を送るとともに、常に世界に視野を広げるだけでなく自己がつながる地域社会を直視し、自らが考え行動し未来を切り拓く力を育成する必要がある。それは自分自身が「将来どう在りたいか」を描ける力でもある。村岡高校では、そのために次のスクールミッション、スクールポリシーを定め、学校経営を図る。

1 スクールミッション

校訓「英知 自立 友愛」 教育指針「人みな使命あり」

「人みな使命あり」の理念のもと、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、新たな価値を創造する能力、コミュニケーション能力、議論する能力、コーディネート能力、自己表現能力を備え、創造的に地域と協働する人材を育成する。

2 スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

① 育成を目指す人物像

「人みな使命あり」の教育指針のもと、地域を学びのフィールドとした高校生活を通して、創造的に地域と協働できる人物を育成する。

② 地域との協働に求められる資質・能力

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスがとれた確かな学力を土台に、地域を学びのフィールドとした探究活動に取り組み、地域との協働に必要な3つの力を身につける。

- | | |
|---------|---------------|
| 「考える力」 | ・課題発見能力 |
| | ・課題解決能力 |
| | ・新たな価値を創造する能力 |
| 「行動する力」 | ・コミュニケーション能力 |
| | ・コーディネート能力 |
| | ・議論する能力 |
| 「伝える力」 | ・プレゼンテーション能力 |
| | ・自己表現能力 |

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

① 個別最適な学び

ア 少人数・習熟度別による授業

国語・数学・英語を中心に、少人数授業や習熟度別授業を実施することで、基礎学力の定着を図る。

イ ICTの活用

情報活用能力を育成し、高度に情報化していく社会に対応できるよう、活用技術や情報モラルの向上を図る。

ウ 特別な配慮を必要とする生徒への対応

生徒・保護者等から一人ひとりの教育ニーズ等を把握したうえで、通級による指導（自立活動）を実施し、単位認定する。

エ 「ガクチカ」の蓄積

村高でしか体験できない活動をガクチカ（学生時代に力を入れたこと）として、自らの経験値を高める。それを、国公立大学進学等のそれぞれ個に応じた進路実現に活かす。

② 地域と協働した学び

ア 「村高発★地域元気化プロジェクト」

総合的な探究の時間を軸に、3学年縦割りで4つのプロジェクトチームを編成し、高校生の視点で活動する。地域をフィールドにして、地域資源を活用しながら、探究活動を行う。

イ 「全校スタッフ」

地元で開催される2大マラソンに全校生でスタッフ参加し、高校生の立場からの企画・運営を通して地域とのつながりや自分の役割を認識する。

ウ 「村高だけの学校設定教科・科目」

地域協働活動「協働のまちづくり」は1年生全員が履修し、総合的な探究の時間へ継続する。地域を学びのフィールドとし、地元の外部講師を活用した調査・実習が中心の授業を展開する。

（3）アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

村岡高校が育成を目指す資質・能力並びに3年間計画する教育内容を踏まえ、入学時に求める生徒像

① 「ガクチカ」

村高でしか体験できない活動をガクチカ（学生時代に力を入れたこと）として、自分の経験値を高めたい。さらに、それを今後の進路実現に活かしたい。

② 「だれと学ぶ」

生活習慣や考え方などが異なる県内外から集まる仲間たち、地元香美町を中心に各方面からの多彩な外部講師など、多様性あふれる人間関係の中で学びたい。

③ 「どこで学ぶ」

村岡高校が立地する、山と川と海の大自然豊かな地域全体を学びのフィールドとして学びたい。

④ <地域創造系>

香美町をターゲットとして活用し、自然、文化、風土に関わる知識の習得と、それらを活かした創造的な地域活性化策に取り組みたい。

さらに、地域創造系を入り口として、将来、地域と協働するための資質・能力を身につけ、地域との関わり方を探究していきたい。

⑤ <アウトドアスポーツ系>

地域の特性であるアウトドアスポーツに関わる技能・資格の習得と、スポーツと自然資源を活かした地域活性に取り組みたい。

2 教科指導等の重点

(1) 教科指導

「確かな学力」を育成するため、「なにを学ぶか」、「だれと学ぶか」、「どこで学ぶか」に重点を置いた教育課程を編成するとともに、ICT をいかした学習環境の整備を推進する。

ア 重点目標

- (ア) 地域と連携した協働性のある学び
- (イ) 全国募集、外部講師を活用した多様性のある学び
- (ウ) 体験活動での自己有用感、敬愛と協調を高める学び
- (エ) 個々に応じた基礎学力の定着

イ 実践事項

- (ア) ICT を活用した学習習慣の定着
- (イ) 少人数学習・習熟度学習による個々のニーズに応じた学習形態の工夫
- (ウ) ICT をいかした学びの推進
- (エ) 類型における系統的で発展的な学校設定教科の配置
- (オ) 探究活動における成果物を活用した検証

(2) 生徒指導

校訓「英知・自律・友愛」、教育指針「人みな使命あり」の精神のもと、明確な方針と全教職員の共通理解で一貫した指導を行う。

ア 重点目標

- (ア) 生命を尊ぶ精神を基本に据え、対話を重視した生徒指導の推進
- (イ) 自分で自分を律し、自己開発に努める姿勢の育成
- (ウ) お互いに尊敬し合い、思いやりの心をもった人間関係の構築
- (エ) 保護者、関係機関と連携した、「地域で育てる」体制づくり

イ 実践事項

- (ア) 学校行事、部活動、生徒会活動等を軸にした高校生活の充実
- (イ) あいさつ運動など、香美町と連携した活動の推進
- (ウ) 「村高スマホ利用 5 か条」制定など、自主性のある生徒会活動
- (エ) 面談やアンケート等を用いたいじめの早期発見、早期対応と未然防止

(3) 進路指導

全校的な協力体制のもとに、「村高キャリア教育」を展開し、本校教育活動の全領域を通して、生徒一人ひとりが自らの力で進路決定を行うに必要な能力・態度を育成する。

ア 重点目標

- (ア) 的確な情報提供を軸とした進路や生き方を主体的に選択する能力の育成
- (イ) 志望理由書の作成による自分の経験の見つめ直し、及び自己分析力の向上
- (ウ) 「キャリア・パスポート」を用いた、体系的・系統的なキャリア教育の推進

イ 実践事項

- (ア) インターンシップ・学校見学による、学ぶこと・働くことへの意識醸成
- (イ) 進学希望者と就職希望者に応じた面接指導の組織的な実施

3 健康管理等に関する指導の重点

(1) 健康教育

生徒が自己の健康管理に留意し、より積極的に健康の保持増進を図ることができよう保健活動の充実を図る。

- ア 教育相談（キャンパスカウンセリング）の充実
- イ 健康診断と事後の早期治療の促進
- ウ 食育を中心に、健康に過ごすための知識および生活習慣の確立

(2) 安全教育

日常のあらゆる教育活動を通じて安全教育を徹底する。

- ア 交通安全の推進、自然災害に対応した避難訓練の充実
- イ 関係諸機関と連携した学校安全体制の強化
- ウ 心肺蘇生法(AED)をはじめとする応急手当と危機管理の訓練
- エ 保健美化委員会の活性化と、教育環境の整備

4 本年度の研究テーマ

(1) 地域との連携の新たな試み

地域との連携、協働を基本とし、高校生の「探究」の視点をより重視した内容へと移行する。生徒の考えを尊重しながら資質・能力の育成と学校、地域の活性化を図る。

- ア 地域の教育資源を活用した教育活動
- イ 大学及び地域社会等と連携した、学校設定教科「地域探求」
- ウ 総合的な探究の時間を活用した「村高発★地域元気化プロジェクト」
- エ 身につけたい資質・能力の育成
- オ 探究活動における成果物を活用した検証
- カ 村高フォーラム、探究発表会を中心とした情報発信
- キ 香美町地域おこし協力隊員（教育コーディネーター）等との連携の可能性

(2) 「高等学校における通級による指導」拠点校としての取組の充実

全生徒に対応した全教員によるICT等を活用した、わかりやすいユニバーサルな授業の実施とその研修を積極的に推進する。

ア 重点目標

- (ア) 学習サポート、面接、面談による生徒一人ひとりへの配慮の充実
- (イ) 教育相談委員会等による校内支援体制（情報共有体制）の強化
- (ウ) 通級による指導を効果的に実施するための教育課程等の整備

イ 実践事項

- (ア) 自校通級での自立活動の実施
 - ・加える学習 BSS（ベーシックソーシャルスキル）
 - ・替える学習 SS（ソーシャルスキルスタディ）
- (イ) エリアの高校をサポート
 - ・巡回指導、教育相談
 - ・教員研修・ケース会議の実施

5 県教育委員会の施策における取組

(1) 県立高校ふるさと共創プロジェクト

- ア 村高発★地域元気化プロジェクト（総合的な探究の時間）
- イ あいさつ運動（PTA、香美町教育委員会と連携）
- ウ オープンスクール
- エ 地域人材を活用した社会人講話による職業観の醸成
- オ 地域企業におけるインターンシップ（2年）
- カ 但馬地区事業所見学会（3年）、但馬地区高校内企業説明会（2年）

(2) 高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用

進路ホームルーム活動や関係する教科・科目での活用

(3) 県立高校魅力アップ推進事業

- ア 「学校運営連携協議会」の開催（年2回）
- イ 「連絡調整会（高校支援連絡会）」の開催（毎月1回）
- ウ 「村高フォーラム」の開催
- エ 小・中学校や地域との連携事業の推進